

たか ちよう  
高 殿 町

## 町の西北が藤原宮跡

大和三山に囲まれた三角地帯の中央、やや東寄りに位置するのが高殿町です。隣の醍醐町と境を接する同町の北西部が、国の特別史跡・藤原宮跡に当たります。

この三角地帯を中心に持統天皇八（六九四）年、約二五平方キロメートルの規模で築かれたのが日本最初の都城・藤原京です。天皇の政治を執り行う藤原宮が都城の中核でしたから、いまの高殿町一帯が古代日本で「政治の中心」だったことになります。

高殿町は、かつて「鴨公村大字高殿」でした。ここに古くから「おおみやど」といわれた小高い土壇がありました。その発掘調査によって藤原宮跡の所在が確認され、当時の建物（大極殿）の高さが約二五メートルあったことなども分かってきました。高い御殿の建っていたことから高殿（たかどの）と呼んだのでしょう。

地名の「高殿」が古文書などに出てくるのが中世一世紀初頭です。当時の南都東大寺と興福寺の領地（荘園）一覧表に、それぞれ「高殿庄」として登場します。

藤原京が和銅三（七一〇）年に奈良の平城京に移ったあと荒れるにまかされた当地は、やがて寺院や豪族の支配する畑や田んぼに変わっていきました。歴史の変遷を現在に告げる地名です。